

第57回 全国保育問題研究集会

兵庫集会



ZENKOKU HOIKU MONDAI
KENKYU SHUKAI
57TH

学び合おう、いのちあるみんなが、
しあわせになるために

- 友だちのなかで育ち合い、子ども一人ひとりが大切にされる、保育実践について学びを深めよう
- みんながしあわせに働き続けられる職場づくりのために、保育に携わるおとな同士が語り合い繋がり合おう
 - 貧困と格差のない、社会づくりのために、世代を超えて手をつなごう
 - 保問研80数年の歴史に学び、未来につなげよう

2018年 6月1日(金)～3日(日)

1日(金) 神戸芸術センター 芸術劇場

12:00 13:00 14:30 14:45 16:15 16:30 17:30 19:30

受付	オープニング・基調提案	休憩	記念講演	休憩	歓迎行事	特別企画・分科会打ち合わせ
----	-------------	----	------	----	------	---------------

2日(土) 兵庫大学・兵庫大学短期大学部キャンパス

8:30 9:15 12:00 13:00 16:30 17:00 18:30

受付	分科会	昼食	分科会	移動	特別講座
----	-----	----	-----	----	------

3日(日) 兵庫大学・兵庫大学短期大学部キャンパス

9:15 11:15 11:45 12:45

分科会	移動	閉会集会
-----	----	------

第57回 全国保育問題研究集会 歓迎のことば

兵庫集会もいよいよ間近にせまってきました。集会のメインテーマは「しあわせ」です。保育や子ども、家庭を取り巻く状況は、待機児童の問題、子どもやひとり親家庭の貧困の問題、そして虐待の問題など、深刻化しています。困難を抱える子どもや家庭への支援を「保育問題」ととらえ、手厚い支援の方策を探っていくことが、いま、早急に求められています。

一方で、社会全体を見渡してみると、日本をはじめとし、世界の各国で少子高齢化が進み、ついに人口減社会を迎えました。いまだ世界で経験したことのない人口減というなかで、どのような社会をつくっていかなければならないのか。記念講演のテーマにもなっていますように、人口減をむかえた日本社会はまさに「転換期」をむかえています。「転換期」の先にあるみんなの「しあわせ」とはどのようなものかを考えていきたいと思っています。

また、いまをいきる人々は、その世代によって、育ってきた時代背景が大きく異なっています。戦後の復興期を生きた世代、高度成長期を生きた世代、バブル景気を生きた世代、経済が低調就職難の時代を生きた世代、格差社会を生きた世代、そして、これからの人口減社会を生きていく子どもたち。

世代をこえてバトンを渡していくということは、こうしたそれぞれの世代が生きた社会背景を知り、それぞれが大切にしてきたことを互いに知っていくことではないかと思います。そして、これから子どもたちが生きる「しあわせ」な社会をつくるために、世代をこえて手をとりあっていく必要があります。

兵庫保問研の実行委員会では、各世代がときにはぶつかりあいながらも正面から意見を交換し、これまでにない全国集会をつくっていかうと、1年以上をかけて準備をしてきました。これからの子どもたちが生きる人口減社会の問題を考える契機となるよう内田樹さんに記念講演でお話していただきます。一方、特別企画では兵庫ゆかりの手塚治虫さんのアニメからしあわせや平和について考えていければと思っています。さらに、歓迎行事では、兵庫保問研が長年取り組んできた劇づくりを、阪神淡路大震災をテーマとして実行委員会メンバーにより行います。

「転換期」をむかえた社会において、これまでの保育の実践と研究の歴史を基礎として、「しあわせ」をキーワードとして、新しいことにもチャレンジしていきたいと思っています。全国のみなさん、ぜひ一緒に、保育や子どもについて、そしてみんなのしあわせについて語り合いましょう。

第57回兵庫集会実行委員会 黒澤 祐介

6月1日(金) 神戸芸術センター芸術劇場

開会集会

13:00~14:30

オープニング……………太鼓衆団輪田鼓(神戸市役所センター合唱団)
歓迎あいさつ……………兵庫集会実行委員長 黒澤祐介
主催者代表あいさつ…全国保育問題研究協議会 西川由紀子
基調提案……………全国保育問題研究協議会 基調提案作成委員

記念講演

14:45~16:15

内田 樹(凱風館館長・神戸女学院大学名誉教授
・京都精華大学客員教授)
「転換期に生きる力を育てる」

現代世界は世界史的な転換点に立っている。グローバル資本主義の終焉、国民国家システムの再編、不可逆的な人口減、AIのもたらす産業構造の転換……どれをとっても『正しい対応』の成功事例が存在しない前代未聞の事態である。激動の時代を子どもたちがどう生き延びるのか、その手立てを考えるのは私たちの急務である。

歓迎行事

16:30~17:30

劇「いきる」

～阪神淡路大震災を超えて～

23年前に起こった阪神淡路大震災をテーマに兵庫県下の保育所職員が、劇を披露します。

私たちが普段意識することが少ない、「生」と「死」について、真正面からぶつかり、「いきる」とは何かを問いかけています。

皆さんの心が揺さぶられる作品になっていますので、ぜひ、楽しみにしてください！

特別企画

17:30~19:30

手塚アニメの上映会

『手塚治虫 作品集—京都アニメシアター一篇—』

手塚治虫さんは、幼少期から兵庫で約20年を過ごされました。「火の鳥」や「ガラスの地球を救え」などから、親子の絆や、地球環境問題、そして「しあわせ」について考えましょう。

※プログラムの一部変更の可能性あり

6月3日(日) 兵庫大学・兵庫大学短期大学部キャンパス

閉会集会

11:45~12:45

現地実行委員会によるうた…「しあわせはこべるように」

特別報告

閉会のあいさつ…兵庫集会実行委員長 黒澤祐介

次回開催地より…熊本からのアピール

分科会

6月2日(土) 9:15~16:30・6月3日(日) 9:15~11:15

*印がついている運営委員は集会実行委員のため退席することがあります

分科会の検討資料は、「季刊保育問題研究290号」(新読書社)に記載されているものを使用しますので必ず持参してください。当日も販売しますが、数に限りがあります。

事前購入を希望の場合は各地の保問研又は新読書社までお問い合わせください。

(新読書社 FAX:03-3814-3097 メール:info@shindokusho.jp)

1 乳児保育

「乳児保育」分科会は長い歴史があり、常に「子どもの最善の利益」の観点から乳児保育のよりよいあり方を考えてきました。年齢別クラス担当基準をはじめ、乳児の生活と発達を豊かに保障する保育内容・方法、環境構成などの具体的な実践を通して検討していきます。また、子ども・子育て支援新制度の下で、子どもの学びや発達の原理とは相容れない「保育」と「教育」の分断化や、市場原理の導入による「保育の質」の低下が進行しています。制度の問題点や矛盾点を解消するためにも、実践を踏まえた幅広く豊かな議論を共にしていきましょう。

浅川淳司(石川)・布施佐代子(愛知)・遠田えり(北埼玉)・亀谷和史(愛知)・佐々木洋子(東京)・柴野邦子(北海道)・友廣万貴子(岡山)・中川伸子(広島)・*西林正美(兵庫)・野村朋(大阪)・菱谷信子(福岡)・松田千都(京都)

2 集団づくり

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育てていくために、発達年齢にふさわしく豊かな集団生活を保障していきたいと思えます。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手だてをどう考えたらよいのか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また、保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきましょう。

池田かよ子(東京)・大元千種(佐賀)・光本弥生(広島)・服部敬子(京都)・丹野広子(仙台)・中島常安(北海道)・長瀬美子(大阪)・古庄範子(熊本)・中洲良子(大阪)・林若子(南埼玉)・山本理絵(愛知)・吉田真理子(三重)・脇信明(長崎)・*徳留由貴(兵庫)

3 あそび

子ども時代が豊かなあそびに満ちていることの重要性は誰も否定できません。子どもにとってあそびの何が大切なのか。なぜ人はあそぶのか。学びとのちがいはなにか。これまで蓄積されてきたあそびの実践報告も踏まえ、子どもがあそびの中でどのような自分を育てていくのか、仲間とどのように育ちあうのか、そのために保育者はどのようにあそびを組織し、発展させていったらよいのか、丁寧に検討していくことが求められています。栽培や飼育活動も含め、全国各地で展開されている、子どもたちが輝くたくさんの楽しいあそびの実践を交流し、保育者の手立てのあり方を話し合っていきたいと思います。

岡村由紀子(静岡)・川内良子(福岡)・木都老克彦(神奈川)・塩崎美穂(愛知)・竹内圭(京都)・田中浩司(東京)・三浦和恵(仙台)・宮城千鶴(大阪)

4-a 身体づくりー運動

この分科会は、保育実践における「運動」のあり方について考えるところです。「運動」はからだを育てることはもちろん、保育者、仲間との関係、こころを育てていきますが、単に「運動」すればよいというものではありません。今なぜ、その「運動」なのか、その教材を通して何を教えるのか、子どもの運動要求をどのように掘り起し、組織化するのか等、乳幼児期の発達に即して、「運動」の目的、内容、方法を丁寧に考える必要があります。今日、便利な生活が進行するなかで「運動」する機会そのものが奪われつつあり、乳児期からより意識的な身体づくりの実践が求められています。各園がおかれている保育環境、保育条件のなかでの工夫はもちろん、子どもの最善の利益を保障するという視点に立って、豊かな身体づくりを実践するために必要な保育環境の基準についても考えていきたいと思います。

上月智晴(京都)・佐々木雄大(東京)・塩田桃子(大阪)・永井三千代(北埼玉)・福井英二(福岡)・*山口千恵子(兵庫)・横井喜彦(愛知)

4-b 身体づくりー食

「食」は命を守り維持し、成長を保障する基本です。健康な身体は発達の基礎です。子どもたちや保護者の現状を知り、健康な子どもを育てるために何が必要か実践を通して語り合ひましょう。昨年までの集会から続いて給食のセンター化・委託化、食材の安全、食を通じての子ども達のこころの育ち、情報過多・自己責任の社会構造の中で評価にさらされている子どもや保護者とのかかわり、食経験の格差、食育活動や食文化などについて語り、学びましょう。

王野宮子(京都)・芹澤早由里(滋賀)・加藤雅美(愛知)・*小西律子(兵庫)・長谷部幸子(北海道)・三上かおる(大阪)・安部貴洋(仙台)

5-a 認識と表現ー文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は、絵本の読み聞かせ・お話づくり・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかかわる園文庫の取り組みなど、多岐にわたっています。多様な実践に迫る共通の視点は、文学と出会うことによって認識を深め、表現し、その中で子どもたちの生活がよりよいものになり、集団の質が高まることです。文学の実践の可能性を追求していきましょう。

小川絢子(愛知)・田代康子(東京)・*徳永満理(兵庫)・西川由紀子(京都)・山崎由紀子(大阪)

5-b 認識と表現ー美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保問研の中にも多様な考え方や実践があります。毎年の分科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識し合うと同時に、様々な実践の違う点、結論を急がずじっくり実践の事実を丁寧に話し合う中で相互理解を深めていけたらと思えます。そこから見えてくるものを大切にしたいと思えます。

伊藤正雄(東京)・田中義和(愛知)・脇志津子(京都)・本田美絵(大阪)・平沼博将(京都)

5-c 認識と表現ー音楽

「音楽」は、子どもの育ち、人間形成にどんな役割を果たすのか、「音楽」が人間らしく、子どもたちの自由でのびやかに楽しく、生きる力になるためには、乳幼児期の音楽教育はどうあったらよいのだろうか。音楽教育での認識とは何であるか。子どもの発達を保障する・促す教材を発達段階にそってどう選択していけばよいのかなどを考えていきたいと思います。

山並道枝(熊本)・藤波陽子(栃木)・安藤正彦(京都)・坂手佳子(大阪)・高橋陽子(北埼玉)・高橋弘子(群馬)

5-d 認識と表現ー科学

子どもたち一人ひとりが良識ある科学者としての目を持った市民として将来的に育っていくためにはどうしたらよいのか。乳幼児にふさわしい科学的なもの見方・考え方とはいったいどのようなものなのか。それを幼い子どもの中に豊かに育んでいくためには保育者として何を大切に、どのような実践を展開していけばよいのか。3・11の原発事故以来、より重要視されるようになったこれからの問題について、実践をもとに考え、議論を深め合ひましょう。

阿部素子(京都)・清原みさ子(愛知)・滝口圭子(石川)・富田昌平(三重)

6 保育計画

保育計画作成は、保育全般に関わり、なおかつ基底となる作業といえるでしょう。保育実践の根底にある子ども像、保育計画を目の前の子どもたちの姿と家庭・地域の状況を踏まえて検討し、職員間・保護者も含めて合意形成する必要があります。今年度より、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が施行されました。保育計画づくりは、保育者の専門性を向上させるものであり、なによりも子どもの生活やあそび、発達を豊かにするものであるはずで、本分科会で改めて、「保育計画とは」を深めていきます。

荒堀育子(京都)・入江慶太(岡山)・合田史宜(愛媛)・早瀬真喜子(大阪)・渡邊保博(京都)

7 保育時間と保育内容

子育てを始めた父母の労働や生活の大変さと多様さのなかで、保育時間は長くなり、日曜日や祝日も保育を実施する園が増えてきています。本分科会では、父母のそうした労働実態、生活実態と、そこで一緒に暮らし、育つ子どものことを考え合い、努力したこと、工夫したこと、悩んだことなどを出し合って学んできました。それは保育園とは何か、という話し合いでもありました。そのような状況を見つめ、また新しい制度のなかで、どのような日課や保育内容を作っていたらよいか、子どもとはもちろん、父母とどのようにわかり合っていたらよいか、保育者の労働条件をどうしていったらよいかなど、たくさんある課題をみんなで考えます。

河本ふじ江（愛知）・清水民子（京都）・清水玲子（東京）・横井洋子（北海道）

8 保育政策と保育運動

「子ども・子育て支援新制度」の施行3年を経て、子どもの生育環境は改善されず、父母や保育現場の職員、自治体担当者の負担は増すばかりです。子どもの貧困や格差、保育事故や虐待事例も深刻です。待機児童問題や職員配置基準の引き上げ、保育士処遇改善など、権利として保育を支える制度への抜本的な転換が必要です。次々に出される政策の中味は、規制緩和と保育の市場化路線の「企業主導型保育事業」などの積極的展開です。各地での保育要求に応える取り組み、保育実践から深められた「保育の質」を守る政策課題と保育の権利を保障する運動のあり方を考えます。

大宮勇雄（東京）・景山一正（岡山）・武尾正信（京都）・*岡田昌大（兵庫）・杉山隆一（大阪）・中村強士（愛知）・森山幸朗（島根）

9 障害児保育

障がいを持った子どもなど、保育においても特別な支援を必要とする子どもたちへの関心が高まっています。支援が必要な子どもへの保育に取り組むことは、クラスの子どもの全体の保育を見直し、職員集団や保護者との協力連携関係を構築していくことにつながります。それは、どの子どもも発達し保育に参加することを保障するインクルーシブな保育を実現することであり、保育の原点を再発見することです。これまでの障害児保育の優れた実践をもとに蓄積された理論を土台にしながら、この時代に必要な実践を創造していきましょう。

河合隆平（石川）・杉山弘子（仙台）・田中洋（大分）・田中良三（愛知）・野本千明（滋賀）・浜谷直人（東京）・三山岳（京都）・山中万美（愛媛）

10 父母と共につくる保育内容

人間らしく生きる力を育てる生活の場としての保育は、昨今の状況から見ても「父母と共に」を抜きに語れません。毎回、父母・保育者それぞれの立場から、お互いに手をたずさえての思いから出発したさまざまな実践が報告されています。父母と保育者の信頼をつくる・父母たちの保育参加を広げる・地域に根ざした共同の子育てを進める・父母と保育者が協力して新しい保育を創造するなどが討議されます。

小林和子（東京）・穴戸健夫（愛知）・長瀬弥生（大阪）・成富清美（福岡）・細見玲美（京都）

11 乳幼児期の平和教育

平和的人間の形成は現代の教育の原点であり、人類的課題といえるものです。乳幼児期から子どもの心の中に平和のとりでを築く平和教育の営みは、平和な将来の社会を保障する重要な条件であり、最も確実な道といえます。平和とは、単に戦争が無い状態だけでなく、貧困、飢餓、虐待、失業、人種・民族・性などの差別の無い、人権が守られている状態を指すものです。保育現場で、生きづらさを抱えた子どもたち・親たちに向き合い日々取り組んでいる、そのことが平和教育につながるものです。愛されているという安心感や自己肯定感を育むことも、仲間と話し合う力を培うことも平和の心を育てる実践といえます。平和教育は決して「敷居が高い」ものではありません。日常の保育を改めて平和教育の視点で捉え直していただくことから始めていきましょう。

石川秀子（広島）・ウィンフィールドひろみ（沖縄）・黒川久美（鹿児島）・千葉朝子（静岡）・船越美穂（福岡）

12 地域に開かれた保育活動

子どもの貧困が広がり、少なくとも7人に1人のこどもが経済的にも文化的にも厳しい家庭環境で育つことを強いられています。子育て家庭が地域で孤立することがないように、保育園や幼稚園はこれまでさまざまな子育て支援活動に取り組んできました。本分科会では、保育園や幼稚園の地域活動とともに、市町村の相談援助活動、地域子育て支援センターなど地域のさまざまな機関・団体の協働の取り組みを交流してきました。いま、子ども・子育て支援新制度のもとで、地域子育て支援活動は新たな展開を迫られています。その課題の検討も含め、地域に開かれた保育活動の展望を切り開きたいと思います。

愛甲明実（鹿児島）・木戸啓子（岡山）・*足立法子（兵庫）・野々上昭弘（大阪）・松浦崇（静岡）・望月彰（愛知）

13 特別分科会 異年齢保育

近年、異年齢保育に取り組む園が増えてきていて、その形態も小規模の保育園だけでなく年齢別にクラス編成ができる園で行われたり、幼児だけでなく、2歳児や1歳児を含む異年齢保育も行われています。2016年から異年齢保育の分科会が設置され、実践している園、これからの園も含めてたくさんの参加者で論議と交流を行うことができました。異年齢保育を実践するなかでの悩みや工夫、疑問や課題を交流し、異年齢保育の展望を語り合い、共に未来を切り開いていきましょう。

佐藤満（滋賀）・谷川芳秋（京都）・森内靖子（静岡）・渡邊智美（三重）

特別講座 6月2日(土) 17:00~18:30

～お詫びと訂正～

2月1日発行の「第57回全国保育問題研究会兵庫集案内」では、特別講座D「子どもの権利条約とこれからの保育～改正児童福祉のもとで～（山下雅彦氏：東海大学・全国保問研熊本集案内実行委員長）」の講座内容が、実行委員会の編集の都合により記載できていませんでした。参加予定の皆様ならびに関係の皆様には大変なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

第57回全国保育問題研究会兵庫集案内実行委員会

A 保育を受ける権利と待機児童解消問題

2015年からスタートした子ども・子育て支援新制度も早3年が過ぎました。当初の見込みは外れ、待機児童は都市部を中心にあふれています。その解消のために、幼稚園での2歳児や小規模保育事業での3歳以上児の受け入れなど規制緩和が進んでいます。さらに導入された企業主導型保育事業という新たな企業参入方式も各地で進んでいます。これらの待機児童解消を「権利」の観点から参加者とともに考えたいと思います。

コーディネーター 中村強士（日本福祉大学）

B 未来への備え

～阪神淡路から繋いできたもの、学びから手をつなごう～

阪神淡路大震災から23年、今でも当時の話を語ると涙が出てしまう保育者の話を聞きました。①当時の保育者の悩みや不安 ②保育園だった保育者が子どもの時の気持ちや様子 ③緊急時における保育施設の在り方の3つの方向から、時が経ったからこそ見えてきたものや語り合えるようになった思いなど、震災の事実に向き合い、命を守る備えを考えましょう。

コーディネーター 全国保問研震災学習部

報告1. 朝倉ユミ（元神戸市民間保育園保育士）

報告2. 久城直美（元西宮公立保育所保育士）

報告3. 増田百代（兵庫保育所運動連絡会）

C みんなのしゃべり場

～みんなの悩み・思いを語り合おう～

分科会とは違った雰囲気の中で、保育の魅力や楽しさ、悩みなどを語り合みましょう。

コーディネーター 松岡佳春（熊本たからじま保育園）

D 子どもの権利条約とこれからの保育

～改正児童福祉法のもとで～

「子どもの権利条約」を日本が批准して24年たちます。2016年の改正児童福祉法に条約が盛り込まれたことは前進ですが、問題はその精神が新しい保育指針や現場の実践にいかされているかどうかです。むしろ、小学校の新学習指導要領の学力中心主義や英語の教科化が保育にまで影響を及ぼし、子どもたちから「休息と遊びの権利」（第31条）、全体として「子ども時代」が奪われつつあるのが現状ではないでしょうか。これはもはや子どもの人権問題です。本講座では、昨年国連に提出された政府報告書や市民・NGO報告書にもふれながら、国のめざす「子ども像」ととらわれない、実践的・探求的「子ども観」の意義について一緒に考えてみたいと思います。

山下雅彦（東海大学・全国保問研熊本集會実行委員長）

E みんなの幸せを育てるために

衆議院では「希望の党」を通じて、自民党政治の継続と「市民と野党の共闘」の破壊を狙う大がかりな謀略が行われました。しかし、結果は自民・公明13議席減、政権を補完する維新・希望10議席減となり、他方で「市民と野党の共闘」を担う立民・共産・社民の31議席増となりました。「共闘」を守る市民の力の根本には、平和と民主主義を守り、経済政策の転換を願う7つの合意がありました。

しかし、与党だけで改憲案の発議が可能な状況は変わっていません。それを食いとめる3000万署名が開始されました。第57回研究集會が行われる頃に、政治はどのように動いているでしょう。問題を大きくとらえてお話ししたいと思います。

石川康宏（神戸女学院大学）

F 「気になる子」が変わる時

～困難をかかえた子どもの発達と保育～

「気になる子」や障害のある子どもの保育で悩むことがあります。そんなとき、どういうところに目をつけて事実を拾い、クラスや園内で話し合いをしていくと、子ども理解が深まるのかについて考えてみたいと思います。そうやって、子どもの願いや悩みを想像してみるだけで、保育は少しずつ変わっていくはずですが。

特別支援というとハウツー的な技術が語られやすいのですが、保育者の皆さんには「保育」を大切にさせていただきたいと願いつつ、「気になる子」が変わるのはどんなときなのかについて、兵庫保育問題研究会発達部会と一緒に考えてきたことを踏まえてお話しできればと思います。

木下孝司（神戸大学）

G 「人を大切にすることを学ぶ方法」について考える

～ハンセン病療養所での活動から～

ハンセン病問題はいうまでもなく、今日においても深刻な人権問題です。今回の特別講座では2つの目的に基づいて話を進めていこうと思います。まず、ひとつめの目的として「ハンセン病問題がどのような問題であるのか」を丁寧に話します。ハンセン病の問題がなぜ深刻な問題であり、今も終わっていないといわれているのかを受講者と共有します。また、もうひとつの目的として、保育・福祉に従事する専門職者が人を大切にすることを再確認する手がかりをハンセン病療養所において取り組んでいる実践の報告を通して考えていきます。

小林洋司（日本福祉大学）・小関里美（一麦保育園）

H 乳幼児期の運動遊び

運動遊びは乳幼児期の子どもの発達にとって重要な活動です。ただ動き回るだけでなく、発育発達レベルに応じた運動遊びを実践することで、より有効で効果的な活動に繋がります。子ども達の「笑顔」「喜び」「歓声」を大切にしながら正しく運動遊びを実施することで、運動嫌いの子ども達が居なくなることを願っています。理論と実際を交えながら、参加者全員で楽しみながら学ぶ機会にしたいと思います。

三宅一郎（兵庫大学・兵庫大学短期大学部）

I 保育にいかす手あそび わらべうた

手を使って1～10までのあそび、2人組になってゆさぶりあそび、子どもたちは手あそびが大好きです。わらべうたのぬくもり、身体をふれ合っただけで刺激することで笑顔になれる言葉の気持ちよさを！すぐに保育で使えるあそびをたくさん覚え楽しい保育実践を！！

梅谷美子（手あそび、わらべうた実践家）

J ごっこ・劇あそび・劇づくり

～絵本からあそびを楽しむ～

子どもの本の出版社を中心としてブックスタートが謳われ、行政が保健所の乳児健診の際に絵本を手渡す取り組みを始めて久しくなります。保育園ではそのずっと前から、保育のなかではなくてはならないものとして、乳児からの読み聞かせを楽しんでいます。家庭でそれとは少し異なるようですが、まねっこや身ぶり表現を促し、みたく・つもりあそびやお話ごっこ・劇あそびを楽しむことに繋がっています。講座では絵本からのあそびが劇づくりに結び付いて行くことを実践的に報告します。

徳永満理（兵庫保育問題研究会）

K 落語を楽しむ

毎日保育に携わり、お忙しくされていらっしゃる皆様には、少しリラックスした時間を過ごしていただければ、と思います。「お笑い」ですので、むずかしい話はいたしません。気楽にお聞きください。気分を開放して楽しんでいただきまして、その中に少しでもヒントになることがありましたら、こんなありがたい事はございません。どうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみくださいませ。

林家染左（噺家）

L 日本における保育カリキュラムー歴史と課題

「指針」「要領」が改定されました。「指針」では「全体的な計画」は「各保育所が創意工夫して保育できるような、作成されなければならない」としています。また、「要領」では、「カリキュラム・マネジメント」という新しいことばも登場してきています。保育カリキュラムとはなんでしょうか。私たちはその長い歴史をもっています。これまでのことを総括し、新しいカリキュラムを創造するという課題に立たされています。どうしたらいいのか、みんなで考えたいと思います。

穴戸健夫（同朋大学）

M 赤ちゃんの身体づくり

～ベビーマッサージ&赤ちゃん体操をマスターしましょう！～

今、子どもの身体が大きく変化しています。『ロコモティブシンドローム（運動器の機能低下）』といわれるような状況が多発し、学校検診の項目に導入されました。乳児期からの身体づくりに注目し、ベビーマッサージの大切さを考えてみたいと思います。内臓・筋肉・骨の発達を促し月齢に応じた動きがスムーズに行えることが最終目的です。からだの発達が気になる子どもに対する働きかけなど、映像を見ながら探っていきましょう。

定員 20名

山口千恵子（おさなご保育園看護師・ベビーマッサージインストラクター）

N 社会福祉法人のあり方とは？

兵庫県では2つの運営費の不正流用問題がマスコミを騒がせました。兵庫県保育経営懇話会では、問題について委員会を立ち上げ、組織運営についての分析を行いました。論議を進める中で、特別な社会福祉法人の問題ではなく新制度の中で、本来あるべき福祉法人のあり方を、私たちに突き付けられている内容でした。組織・財政・保育労働の柱より報告して論議を深めていきたいと思います。

コーディネーター 杉山隆一（大阪保育研究所）
報告者：池上義三、松川修、前田千代
（兵庫県保育経営研究懇話会調査委員会）

O みんなが幸せになるために

～誰もが自分らしく笑うこと、悩むことを応援します～

保育園の障害児保育から生まれた「NPO法人IPPO」は、ノーマライゼーションの精神で、障害のある人達の支援や様々な活動をしています。障害のある人達の自己表現の場「アートスペース」を始め、勉強を支援する「勉強の会」趣味を広げる「ピアノ教室」や「パソコン教室」など、ひとりの声を大切に、みんなの明日につながる願いを実現してきました。そして、障害福祉事業も立ち上げ、保育園と連携して活動しています。

社会福祉法人杉の子会
さんぽ支援センター 小林保子

第57回 全国保育問題研究集会 兵庫集会 申込書

FAX：078-351-2140【国際ツーリスト・ビューロー宛】

【新規・変更・追加・取消】
いずれかに○をご記入ください

フリガナ		参加証 ・ 請求書送付住所（ 自宅 ・ 職場 ） ○をご記入
代表者名 保問研名	（ 保問研 ）	〒
職場名 学校名等		TEL： FAX：

NO	フリガナ 参加者氏名	性別	分科会 記号	特別講座 記号	宿泊 第1希望		宿泊 第2希望	弁当 6/2	職場名・学校名	一般 ・ 学生	備考
					6/1	6/2					
例	ヒョウゴ 兵庫 花子	女	3	E	1	1	3	○	〇〇保育園	一般	NO2 と 同室
1											
2											
3											
4											
5											

*字は大きくはつきりとご記入ください。

◇ツインを希望される方は、お申込み用紙に同室者をわかるようにご記入ください。

◇上記宿泊プラン以外での館内ご利用分（飲食等個人的なご利用等）は、チェックアウト時に各自ご精算ください。

ご記入に際して（必ずご一読ください）

*「参加要項」をご確認の上、ご記入ください

①宿泊希望日欄にホテル申込記号をご記入ください、第2希望のホテルもご記入ください

②ツインルーム希望の場合は、備考欄に同室者の番号をご記入ください

③6/2のお弁当をご希望の方は、弁当欄に○印をご記入ください（事前予約制） 兵庫大学近辺には購入、飲食する場所がありませんので事前に申込をされることをお勧めいたします（当日の申込対応は出来かねますので、ご了承ください）

④兵庫大学への移動は徒歩となりますが、当日の会場案内係りの方の道順案内に従ったルートを通行してください

⑤お支払いは銀行振込のみとさせていただきます なお、振込手数料はお客様負担となります（予めご了承ください）

⑥変更・追加・取消などは、こちらの申込用紙に上書きしFAXしてください

【宿泊のご案内】 *受注型企画旅行

▪2018年6月1日（金）～6月2日（土）の2日間をご用意しております。記載料金は1泊朝食付（サービス料・消費税込）の料金となります。

ご希望ホテルは、予約申し込み先着順となります。最少催行人員/1名様（添乗員は同行しません）

《お支払方法》

*一次締切日以降、郵送にて請求書・参加証等をお送りいたします

☆お申込み内容を確認後、指定日までに銀行にお振込みください*振込手数料はお客様負担

*事前に送付いたします参加証は、集会参加当日には必ずお持ちください

*一次締切 4月20日（金）

*最終締切 5月11日（金）

参加要項

お申込み

お申込み開始は・・・2月1日(木) AM9:00より インターネット及びFAXにて

■インターネットでのお申込み

- 1) 「全国保育問題研究協議会」(全国保問研) <http://zenhomon.jp>
- 2) (お申込みは) トピックスから「国際ツーリスト・ビューロー」をクリックしてください

■FAXでのお申込み FAX 078-351-2140

ご利用の際は、別途お一人様¥300の手数料を頂戴いたします

参加費

- 一次締切 4月20日(金) 8,000円(学生 3,000円)
- 最終締切 5月11日(金) 8,500円
- 当日扱い 9,000円
- 弁当(6月2日分) 1,000円
- 宿泊費(6月1日、2日)・・・宿泊費についての詳細は次ページをご覧ください

(注) 最終締切日以降のお申込みは、当日扱いとさせていただきます。お早目にお申込みください。

*台風等の災害により開催が危ぶまれる場合は、ホームページでお知らせいたします。随時ご確認ください。

なお、やむを得ず中止となった場合は、参加費は資料郵送代として1,000円を頂戴し、残金は返金いたします。宿泊費、弁当代は下記のキャンセル料規定に準じます。

■ご変更・お取消について(トラブル防止の為、お電話による変更・取消は受付いたしておりません)

お申込みの変更・取消はFAXまたはメールにてご連絡ください。なお、取消料は下記の通りです。

参加取消日	参加費取消料	ご返金額	変更・取消日	宿泊費取消料	弁当代取消料
5日前迄 (5月26日まで)	500円	取消料・振込料を 除いた残金	利用日7~3日前迄 (午後5時まで)	宿泊費の20%	無料
前々日迄 (5月30日)	参加費の20%		利用日の前日まで (午後5時まで)	宿泊費の30%	弁当代の50%
前日以降 (5月31日以降)	参加費の100%		返金ございません	利用日の当日 (午前中まで)	宿泊費の50%
			未連絡	宿泊費の100%	

■ 宿泊ホテルのご案内

■ 2018年6月1日（金）・2日（土）の2日間をご用意しております。

前泊が必要な方はお問い合わせ下さい

■ 下記料金は1泊朝食付き（サービス料込、消費税8%込）の料金です。

ホテル名	地域	申込番号	部屋タイプ	料金	最寄駅
姫路キャッスル グランヴィリオンホテル	姫路	1	シングル	8,700円	姫路駅より無料送迎バスあり 姫路駅より徒歩10分
ホテル日航姫路	姫路	2	シングル	10,000円	姫路駅より徒歩2分
ホテル姫路プラザ	姫路	3	シングル	6,800円	姫路駅より徒歩3分
ホテルモントレ姫路	姫路	4	ツイン	10,500円	姫路駅直結

《お申込み・お問い合わせ》

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-1-4 オフィス下山手5階

(株)国際ツアーリスト・ビューロー 「第57回全国保育問題研究集会」 担当 大村・倉長・谷岡

電話：078-351-2110 FAX：078-351-2140

E-mail：ktb@silver.ocn.ne.jp

【営業時間：平日 9：00-17：00 土曜日 9：00-12：00（日・祝日は定休日）】

■ 会場案内

（6/1：金）【神戸芸術センター】全体会場

- ・JR「新大阪」、「姫路」から「三ノ宮」まで新快速で約40分
- ・JR、阪急、阪神「三ノ宮」より地下鉄「新神戸」まで3分
- ・新神戸駅より徒歩5分

（6/2：土、6/3：日）

【兵庫大学・兵庫大学短期大学部キャンパス】分科会

- ・JR「姫路」から「加古川」まで新快速で約10分
- ・「加古川」から「東加古川」まで普通電車で約3分
- ・JR「新大阪」から「西明石」まで新快速で約50分
- ・「西明石」から「東加古川」まで普通電車で約15分
- ・「東加古川」より徒歩約15分

会場案内の係りの方の道順案内に従って下さい
タクシーのご利用の際は「加古川」より約15分

